三原市歷史民俗資料館

蔵出しお宝ニュース

- 第 19 号 -

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。 本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介など を随時行って参ります。

高中惣六の作品 見つかる

三原ゆかりの漆工芸家・高中惣六 [明治 32 (1899) 年~昭和 49 (1974) 年〕の作品,「朱籀 紫養棚」を紹介します。高中惣六は現在の尾道市因島で生まれました。大正 6 (1917) 年に,宮城県立工業学校を卒業後,工芸技術を志し東京美術学校教授の石井土 宣に教えをうけ,漆工芸家としての道に入りました。大正 12 (1923) 年,皇居の建物の修理のために漆工芸技術者として奉仕活動をしました。同じ年に関東大震災のため帰郷し,三原に住むことになりました。





以後、備後地方において漆工芸愛好家の興味や関心を高め、漆工芸の発展の基を築きました。その間、展覧会などにも作品を出品して入選・特賞を受賞し、審査員としても活躍しています。昭和 15 (1940) 年には、戦時中で自由に使用できなかった金を使用してもよいと国から許可をもらい、制作活動に役立てました。昭和 46 (1971) 年に山陽新聞文化功労賞を受賞しています。

今回発見された糸巻棚は、茶道に用いるもので、溜塗です。浮城まつりが開催される文化の秋の季節に、芸備地方と関係深い茶道具・工芸品とともにご披露したいと考えています。

- (上) 朱溜 糸巻棚
- (下)「塗師 惣六」と本人によって 書かれた共箱

#hean A disean **藩札・三原札 見つかる**

広島藩が江戸時代に発行した藩札が見つかりました。箱いっぱいに入っており、膨大な枚数です。江戸時代には幕府が貨幣鋳造権を掌握していました。よって貨幣鋳造権を持たない大名や旗本などは、領内通用の紙幣(藩札)を発行して財政を補い、金・銀の正貨はなるべく回収して藩の財政運用にあて、藩内には藩札通用を強要しました。広島藩も比較的早くから藩札を発行し、三原から広島に移住した豪商の三原屋も藩札発行に関わっています。



見つかった藩札

また、三原浅野家(広島藩 42 万石・浅野家の親戚で、代々筆頭家老を務め、三原城主で3万石を領しました。)も文化 15 (1818) 年に給地内通用の米預かり切手(米2升札)を発行しました。米札の他にも銭札や銀札なども発行しましたが、これらを三原札と呼んでいます。

このたび見つかった藩札がおさめられていた箱に三原札も1枚入っていました。

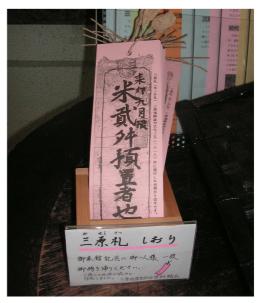
資料館にお運びいただいたお客様にご来館記念 として、原寸大の三原札を印刷したしおりを玄関ロ ビーにて無料配布しています。



掛物 内田 酷夫 画 型染絵 「花と鳥」

> (内田皓夫は三原ゆかりの型染作家で、マンホールにデザインされているやっさ踊りの作品が おなじみです。)

花入 魚籠 花 季のもの



三原札のしおり

数に限りがございますのでお1人様1枚で お願いいたします。

発行 平成 25 (2013) 年 5月30日 〒723-0015 三原市円一町2丁目3-2 三原市歴史民俗資料館 TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なさ らないようにお願い申し上げます。